

株価チャートでこの形が出たら即利食い！

上昇の終わりを告げるローソク足の見方

■免責事項

著者は一切責任を負いません。全て自己責任で行うこととします。

■著作権について■

著作権者の許可を得ずして、本レポートの一部または全部を複製、転載することを禁じます。

本レポートの著作権は著者に属します。

本レポートの使用につきましては十分にご注意下さい。

[illegible]

・ はじめに

こんにちは！

今旅は無料レポートをダウンロードしていただき大変ありがとうございました。

さて、株式投資をしていらっしゃる方でも目的っていろいろありますよね。

例えば、株式の配当金が目当てである、株式優待制度がいいから株式を買っている、株式の売買さえ気を稼ぐために株式投資をしている。

株式投資をする目的としてよくあるのはこれくらいでしょうか。

このうち前2者は、極端な話優待制度や配当金が悪くならない限りは、株価の小さな動きに対してはそんなに関心がない人が多いですよね。

なので、株価のチャートをしょっちゅうチェックするということはありません。

ですが、株価の売買差益で儲けようとしている方は、チャートというのは手放せないものです。

特にデイトレードやスイングトレードといった短期売買をなさる方にとっては、株価チャートのシグナルに沿って売買するのが基本ですよね。

なので、売買差益を狙う人、特に短期売買をなさる人はどこが株価の天井なのかを把握する必要があります。

天井を確認したら、今保有している株式を売却して、利食いする。これが基本ですよね。

でも、どれが天井なのかを確実に捉えるやり方はないんですよ。残念ながら。

底値で買って天井で売るということはプロでもめったに出来ませんからね。

なので、われわれとしては、天井がどこかではなく、どこで上げどまりそうなのか。天井の場所を大体把握できるようになればいいわけです。

ここら辺が天井かなというのが判断できれば、そこで手仕舞いをする事で利益を得ることが出来ます。

逆に天井らしいサインが出ているのに、それに気づかず、手仕舞いしないでぐずぐずしていると、せっかくのっていた利益を取り損ねることにもなりかねません。

なので、相場の上げ止まりを示すサインは見逃さないようにしたいですね。

そこで、今回、ローソク足が発する上げ止まりのサインの見方というものをお伝えします。

- ・ ローソク足について

では、具体的な話しに入る前にローソク足について復習してみましょう。

まず、数あるテクニカル指標がある中でなぜローソク足なのかについてお話しますね。

ローソク足はチャートの基本中の基本です。

それはどういうことかということ、多くの市場参加者がこのローソク足を見てるんですよ。

となると、そのローソク足が示すサインを信用して売買する参加者は必然的に多くなりますよね。

そのため、ローソク足が示すサインでその後の相場が動くことが多いんですよ。

テクニカル分析を有効に使うには市場参加者の多くが使っているテクニカル分析を行うことです。

となると、このローソク足は最も基本的且最高のテクニカル指標といえるのではないのでしょうか。

で、次にローソク足の構成について触れておきます。

ローソク足は始値、終値、高値、安値の4つの値で構成されています。また、ローソク足1本1本が設定された期間を示しています。例えば日足であれば、1本のローソク足が1日の値動きを示しているわけですね。

で、ローソク足の種類には大きく分けて3タイプあります。

< 陽線 >



始値よりも終値が高い場合のことです。

< 陰線 >



始値よりも終値が低い線のことです。

< 同時線 >



始値と終値が同じのものです。陽線や陰線と違い実体がありません。

簡単にお話しするとこんな感じですね。

さらにローソク足は陽線や陰線に見受けられるような実体部分と、
その上下に伸びた「ひげ」と呼ばれる線で構成されています。

このひげは売り手よりも買い手が強ければ下に長くなりがちですし、
売り手の方が強ければ上に長くなりがちですね。

で、このローソク足をつかってどうやって上げ止まりかどうかを
チェックするのですが、このひげの出方や、ローソク足の組み合わせ
で判断します。

そのやり方を次でお話しますね。

- ・ 上げ止まりのシグナルを発するローソク足

それでは、どんな形になったら上げ止まりのサインになるのかについてお話していきますね。

< 高値圏でのうわひげ陰線 >



画像の赤枠のところを見てください。

上昇してきたところで、長いうわひげをつけたローソク足がでてきますよね。

高値でのうわひげはそこで上げどまる可能性がかなり高いのですが、それが陰線になると特に強いサインになります。

長いかどうかの目安としては、ひげの長さが実体の2倍以上で、下ひげよりも長いということです。

< 包み線 >



包み線とは直前のローソク足の実体部分よりも始値と終値が長いものです。

画像の赤枠内を見てほしいのですが、直前の陽線実体部分を、次の陰線実体部分がカバーしています。

こように高値での陽線をカバーする陰線による包み線が出るとそこが相場の転換点となることが多いです。

上げどまって持ち合いになったり、下降トレンドに転落することが多いですね。

< 被せ線 >



被せ線とは直前の陽線終値よりも高い価格で始まり、終値が直前陽線の実体の半分以下に来ているものです。

画像の赤枠がその例です。

高値でこれがでると、そこで上げ止まり、持ち合いか下降トレンドに入ることが多いです。

なので、そこでいったん利食いして、次のタイミングを待ちましょう。

< 宵の明星 >



画像のとおり、長い陽線の後、次の足が直前の終値よりも高値で始まり、陰線で終了。そして、次の足が長い陰線で、終値が2つ前の陽線の実体の半分よりも下にのびている状態のものです。

これも相場の上げ止まりを示すサインとなることが多いので、覚えておきましょう。

・ 最後に

いかがでしたか??

ローソク足によるサインはこれがすべてではありません。

なので、これ以外にもぜひ自分でローソク足の勉強を進めてほしい
のですが、今回ご紹介したのは基本中の基本なので、市場参加者も
知っている人が多いです。

なので、見逃さないように頭に叩き込んでくださいね♪

最後までありがとうございました。